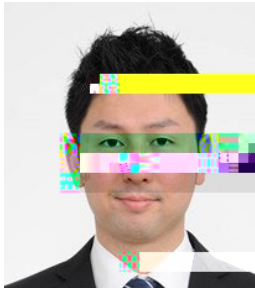


# 洋上風力発電に対する社会的受容性： 選択型実験を用いた選好分析



経営学部 経営学科  
講師

岩田 健吾  
IWATA, Kengo



## ● 研究内容

2020年10月、日本政府は2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルを宣言し、以降、再生可能エネルギーの普及が加速しています。特に洋上風力発電は、その高い発電ポテンシャルから大きな期待を集めています。2020年12月に公表された洋上風力産業ビジョンでは、2030年に1,000万kW、2040年に3,000万～4,500万kWの発電案件形成が目標とされています。しかし、洋上風力発電の導入予定地域は都市部ではなく地方部が中心であり、地元住民との合意形成が不可欠です。例えば、英国では市民の80%が風力発電を支持しているにもかかわらず、風力発電計画の75%が中止されています (Bell et al., 2007)。これは、風力発電がクリーンなエネルギーとして支持される一方で、実際に当該地域に導入される場合には、騒音被害や自然環境・景観の劣化といった負の側面への懸念から反対されることが原因であると考えられます。

そこで我々の研究では、国内で洋上風力発電が計画・実施されている地域を対象に、洋上風力発電に対する住民の選好を明らかにすることを目的としています。

具体的には、以下の3点を明らかにすることを目指します：

1. 地域特性や個人属性による選好の差異
2. 洋上風力発電を受け入れる条件や要因
3. 効果的な情報提供や表現方法

## ● 想定パートナー

自治体、環境アセスメントおよびコンサルタント、環境活動を実施する企業、教育関係、商工会、NPO、NGO など

## ● 応用分野

環境保護、合意形成、地域活性化